

IV 佐倉ホワイエ

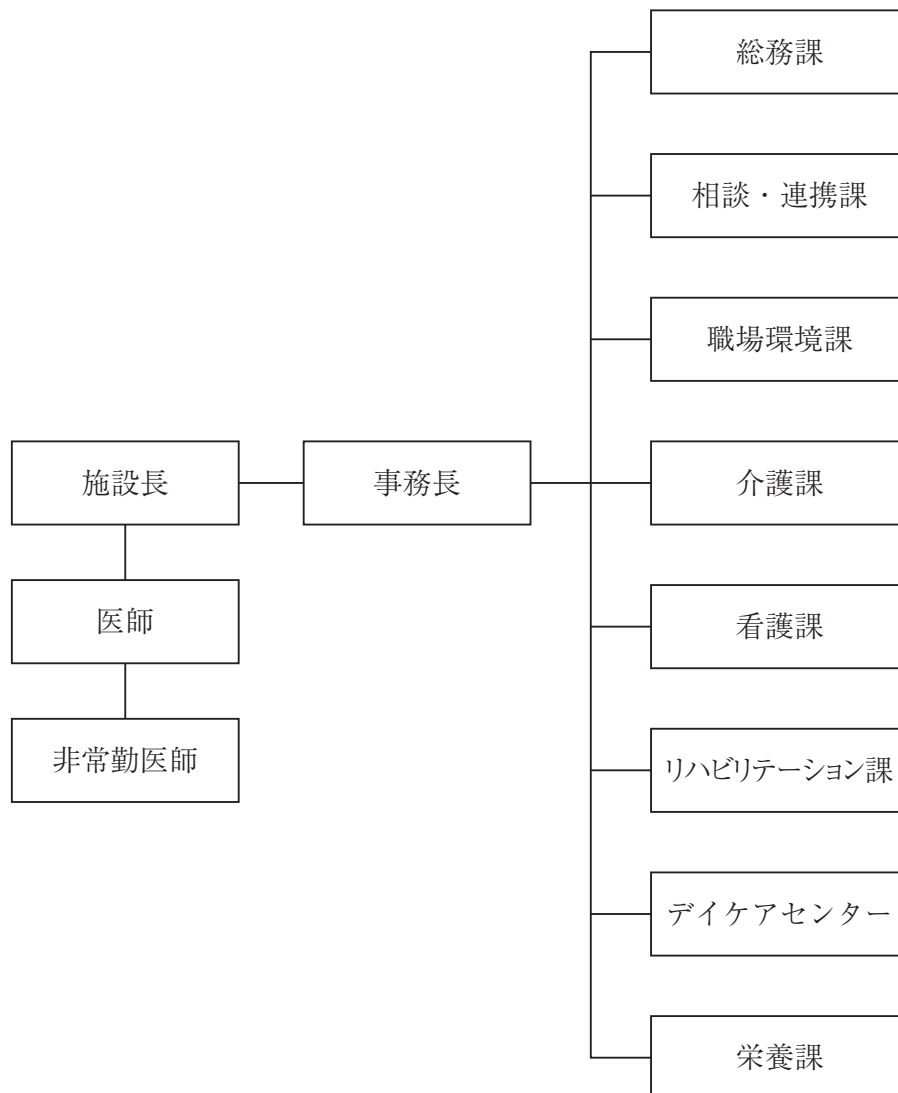
1 現況

概要

所在地 〒285-0025 千葉県佐倉市鎗木町336番地
TEL 043-484-4680
開設年 平成2年

施設長 遠山正博
入所定員 80人

組織図



各種認定資格

●医師

2022年3月現在

氏名	認定機関	認定資格
遠山 正博	日本老年医学会	老人保健施設管理認定医
	全国老人保健施設協会	認知症短期集中リハビリテーション研修修了

●総務課

氏名	認定機関	認定資格
香取 文男	厚生労働省	社会福祉主事
	日本慢性期医療協会	リスクマネジメント研修修了
島 雅之	日本医療教育財団	ケアクラーク
	日本産業廃棄物処理振興センター	特別管理産業廃棄物管理責任者
	日本防火・防災協会	防火管理者／防災管理者

●相談・連携課

氏名	認定機関	認定資格
石田 康之	厚生労働省	介護福祉士
	千葉県介護支援専門員協議会	介護支援専門員
岡田 大輔	厚生労働省	社会福祉士／介護福祉士
	千葉県介護支援専門員協議会	介護支援専門員

●介護課

氏名	認定機関	認定資格
丸山 恵	厚生労働省	社会福祉士
	千葉県介護支援専門員協議会	介護支援専門員
	中央職業能力開発協会	介護アテンドサービス士
	日本認知症ケア学会	認知症ケア専門士
	シルバーサービス振興会	介護プロフェッショナルキャリア段位制度評価者
関口 翔平	日本介護福祉士協会	介護福祉士実習指導者
	千葉県介護支援専門員協議会	介護支援専門員
	日本認知症ケア学会	認知症ケア専門士
	東京商工会議所	福祉住環境コーディネーター2級
	シルバーサービス振興会	介護プロフェッショナルキャリア段位制度評価者
藤江 誠	千葉県介護支援専門員協議会	介護支援専門員
	東京商工会議所	福祉住環境コーディネーター2級
	シルバーサービス振興会	介護プロフェッショナルキャリア段位制度評価者
保谷 浩一	千葉県介護支援専門員協議会	介護支援専門員
坪井 真司	厚生労働省	社会福祉主事
児島 禎一	厚生労働省	社会福祉主事
佐久間 絢香	千葉県	高齢者施設等への応援職員派遣体制にかかる感染防止対策研修修了
中山 陽介	千葉県	高齢者施設等への応援職員派遣体制にかかる感染防止対策研修修了
知念 亮子	千葉県	高齢者施設等への応援職員派遣体制にかかる感染防止対策研修修了
藤野 優由貴	千葉県	実務者研修
長山 ゆめか	千葉県	実務者研修
二葉 知子	千葉県	実務者研修
砂川 洋介	千葉県	認知症介護実践研修修了

●看護課

氏名	認定機関	認定資格
坂本 悦子	千葉県介護支援専門員協議会	介護支援専門員
梶内 清治	千葉県介護支援専門員協議会	介護支援専門員
宮内 美子	千葉県介護支援専門員協議会	介護支援専門員

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

●リハビリテーション課

氏名	認定機関	認定資格
金子正樹	厚生労働省	臨床実習指導者
	千葉県介護支援専門員協議会	介護支援専門員
	東京商工会議所	福祉住環境コーディネーター2級
佐田龍吾	全国老人保健施設協会	生活行為向上リハビリテーション研修会修了
依田香保	全国老人保健施設協会	生活行為向上リハビリテーション研修会修了
平澤美枝子	全国老人保健施設協会	生活行為向上リハビリテーション研修会修了
田代舞	千葉県介護支援専門員協議会	介護支援専門員
	日本リハビリテーション病院・施設協会	生活行為向上リハビリテーション研修会修了
森本未来	全国老人保健施設協会	生活行為向上リハビリテーション研修会修了

●デイケアセンター

氏名	認定機関	認定資格
黒川修一	東京商工会議所	福祉住環境コーディネーター2級
	全国老人保健施設協会	生活行為向上リハビリテーション研修会修了

●厚生園ケアマネジメントセンター

氏名	認定機関	認定資格
高橋隆彦	厚生労働省	社会福祉士／介護福祉士
	千葉県介護支援専門員協議会	主任介護支援専門員
内藤順江	厚生労働省	介護福祉士
	千葉県介護支援専門員協議会	介護支援専門員
成毛育子	厚生労働省	介護福祉士
	千葉県介護支援専門員協議会	介護支援専門員

施設利用状況

			2019年度	2020年度	2021年度
1日平均入所者数(人)	介護老人保健施設	要介護1	3.5	3.0	3.6
		要介護2	17.1	15.9	15.7
		要介護3	14.3	13.0	15.2
		要介護4	26.3	27.0	24.1
		要介護5	16.3	17.1	16.9
		計	77.5	76.2	75.4
	短期入所療養介護入所	要介護1	0.2	0.2	0.2
		要介護2	0.2	0.1	0.5
		要介護3	0.3	0.4	0.2
		要介護4	0.2	0.3	0.2
		要介護5	0.1	0.2	0.6
		計	1.0	1.1	1.6
合 計			78.5	77.3	77.0
1日平均通所者数(人)	通所リハビリテーション	要介護1	7.2	5.9	4.3
		要介護2	7.5	7.9	9.8
		要介護3	7.0	5.8	6.2
		要介護4	3.7	3.9	4.3
		要介護5	1.5	0.5	0.9
		合計	26.9	24.1	25.6
	予防通所リハビリテーション	要支援1	2.3	1.2	1.0
		要支援2	6.6	4.9	5.7
		合計	8.9	6.1	6.7
	合 計			35.8	30.2
平均入所利用率(%)	介護老人保健施設		96.8	95.2	94.2
	短期入所療養介護入所		0.9	1.4	2.0
	合 計		97.7	96.6	96.2
平均通所利用率(%)	通所リハビリテーション		54.1	48.1	51.2
	予防通所リハビリテーション		20.4	6.2	13.4
	合 計		74.5	54.3	64.6
平均在所日数(日)	介護老人保健施設		459.1	632.4	546.8
	短期入所療養介護入所		5.1	11.8	12.7
	合 計		464.2	644.2	559.5
平均要介護度	介護老人保健施設		3.4	3.5	3.5
	短期入所療養介護入所		2.5	3.0	3.3
	合 計		3.4	3.5	3.5
在宅復帰率(%)		24.2	11.7	15.1	
利用者100人あたりの 従業員数	医師		1.1	1.1	1.1
	看護師・准看護師・介護職員		44.2	47.6	47.0
	支援相談員・PT・OT・ST		10.2	10.1	12.3
	その他		10.7	7.1	6.8
	合 計		66.2	65.9	67.2

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

2

業務実績

総務課

文責／加藤昌宏

スタッフ(2022.3現在)

事務員：常勤2名、非常勤2名
加藤昌宏(課長)、島 雅之(主任)
杉山恵美子(非常勤)、小川雪江(非常勤)

活動状況

1. 廃棄物低減

施設全体から生じる廃棄物を分別、計量、記録し、量の低減化に努めた。定期的に成果を可視化し、職員へ周知することで意識向上を図った。残食量を計量(1,747kg)し、シンクピアを用いて水と微量の二酸化

炭素に分解、生ごみは皆無とした。残食量の経日推移を可視化し、献立の改善に活かすとともに利用者の健康状況モニターの一助とした。

2. 節電、節水

本年における施設の総消費電力は235,174Kwhであった。長期的視点から設備を更新し、更なる節減を目指したい。

今後の目標

今後も環境保全とエネルギー節減に努めたい。さらに食材の有効活用とともに環境保全に注力する。

相談・連携課

文責／石田康之

スタッフ(2022.3現在)

支援相談員：常勤2名
石田康之(係長)、岡田大輔(主任)

活動状況

1. 入所利用者数の月別変動

入所実利用者は114人、入所延べ利用者数 28,123人、1日平均77.0人であった。入所利用者数は、今年度も新型コロナウイルス流行の影響で、昨年の108人から微増に留まった。月別変動をみると、2022年1月～3月は、新型コロナウイルス感染予防対策により受け入れを制限したため、影響が大きかった。3月中旬以降の利用率は改善傾向である。

2. 入所利用者の年齢、要介護度、入所経路

入所利用者114人を入所時年齢別にみると、80歳代は51人(44.7%)、90歳代は32人(28.1%)、100歳以上は1人(0.1%)であった。昨年度は、それぞれ44.4%、

25.9%、0.1%であったので、大きな変化はなかった。要介護度別利用者数は、要介護度5が21人(18.4%)、要介護度4が30人(26.3%)、要介護度3が22人(19.3%)であった。昨年度はそれぞれ21.3%、37.0%、18.5%であり、今年度は要介護度4、5の割合が減少した。入所経路についてみると、病院からの入所者は74人(64.9%)であり、昨年度の70人(64.8%)と変わらない。居宅系(居宅、グループホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅、短期入所)からは35人(30.7%)であり、昨年度の31人(28.7%)より増加した。老健からは6人(5.3%)であり、昨年度は7人(6.5%)と大差ない。

今後の目標

近隣病院との関係を維持しながら、居宅系からの入所も積極的に受け入れたい。感染予防対策を徹底した上で、計画的に入退所を行い、稼働率向上を目指したい。

介護課

文責／丸山 恵

スタッフ(2022.3現在)

介護福祉士：常勤17名
丸山 恵(課長)、関口翔平(係長)、
藤江 誠(主任)、保谷浩一(副主任)、

坪井真司(副主任)、児嶋禎一(副主任)、
鈴木厚祐(副主任)、中山陽介(リーダー)、
佐久間絢香(リーダー)、高橋麻莉奈、
知念亮子、木村由美子、小野寺陽子、
泉澤亜由美、西條典子、豊田悦子、
堀江 泉

介護職員：常勤7名
 笹川由香、二葉知子、白井元輝、井上 学、
 藤野優由貴、長山ゆめか、菅原あやか
 介護職員：非常勤9名
 池田裕子、鈴木恵子、小出芳枝、石渡俊枝、
 岡部真理子、片岡公子、太久保すみ子、
 中川 恵、畠山裕子

活動内容

1. 危険発生予防の試み

2021年4月、事故防止検討委員会より「事故を未然に防ぐため、ヒヤリハット報告を積極的にを行い、事故防止に努める」という働きかけがあった。そして、様々な検討したところ、2021年6月からは、これまで使用していた処遇検討報告書(Excel)を廃止し、ワイズマンシステム内のヒヤリハット報告書および事故報告書を使用することになった。報告力が向上したように思う。入所から1週間のご利用者の行動を把握するため、眠りスキャンを必ず設置した。また、リハビリが進むに連れ、自己動作の増加や単独で歩き出す行動が見られる方には、ベッドサイドで使用するセンサーマットのほか、車いす上で使用できる体動検知器などの様々な機器を試し、導入を検討した。

2. 介護職員の業務負担軽減の試み

毎年行われるストレスチェックにて、当課の総合健康リスクは昨年度よりも高く、業界平均の約1.5倍の数値が現れた。詳細を見ると、身体的負担感が強く、仕事のコントロールが難しいとのことだった。ただし、安定した報酬は得られているようで、業界平均を上回っている。介護職員の高齢化に伴い、身体的負担感軽減を目指すため、移乗サポートロボットやマッスルスーツ、眠りスキャン直結カメラなど、より身体的負担を軽減できる介護ロボット導入について模索中である。また、今年度は男性介護士が2か月間の育児休暇

を取得した。

3. 感染症予防の取り組み

新型コロナウイルス感染予防の取り組みとして、職員の体調確認や消毒・手洗い、マスクの着用などを行うほか、利用者への感染予防として各フロアの消毒作業、食堂席の亚克力板設置、利用者の食事前の手指消毒を実施した。

4. 排泄の取り組み

毎月、紙おむつの使用状況をおむつ業者へ報告した。その数字をもとにデータ分析したところ、パンツタイプのおむつ使用者が約6割、テープタイプのおむつ使用者が約4割となっており、排泄自立に向けての取り組みの成果が顕著に表れている。毎月、おむつ業者が当施設を訪問し、データ分析結果を共有しているが、今年度はコロナ禍のため訪問回数が制限された。また、面会することもままならないため、データ分析結果は、施設側の代表者との対談を録画することで共有した。おむつ業者の声を直接聞くことで、職員の士気向上につながっている。

今後の目標

1. 認知症や高次脳機能障害の方の入所が増加しているため、各課が連携し、できるだけ早期にリスク回避するよう努める。介護職員が積極的に認知症研修を受講し、認知症利用者に対する理解と心理症状に対する対応を学び、実践することで、不安から導かれるリスクを回避する。
2. 介護ロボットの導入を積極的に検討し、職員の身体的負担感を軽減する。
3. 引き続き施設内に感染症が入らないよう予防に努めながら、利用者の満足度を少しでも高められるよう、施設内の活動を充実させる。
4. おむつ業者と協力しながら、排泄研究に取り組み、ケアに活かす。

看護課

文責／清治恵子

スタッフ(2022.3現在)

看護師：常勤5名、非常勤2名
 清治恵子(師長)、宮内美子、篠田望美、
 神林祐子、神多野節子、
 小林貴代子(非常勤)、坂本悦子(非常勤)
 准看護師：常勤7名
 梶内清治、長竹静子、小川ひろ子、
 長谷川敏子、長谷川順子、米嶋いつ子、
 寺下フサ子

活動状況

1. 入所利用者の主疾患の解析

入所利用者108名の入所時主疾患(診療情報提供書による)を解析した。最も多かったのは中枢神経系疾患、次いで運動器系疾患であった。この2疾患が全体の73.2%を占め、昨年度の71.3%より増加した。循環器系は8.3%、糖尿病は3.7%と昨年度と同様であった。また、病院に入院退所した17名について、入所時と退所時の主疾患を検討すると、消化器系35.2%、呼吸器

系17.6%、悪性腫瘍系11.8%、暴力行為、自傷行為での精神科入院11.8%、運動器系5.9%、泌尿器系5.9%、皮膚科系5.9%で新たな疾患を得た。主な入院先は佐倉厚生園病院12名。その他、成田赤十字病院、聖隷佐倉市民病院、東邦大医療センター佐倉病院、成田病院、西佐倉病院へ各1名転院した。他職種と連携し、異常を早期発見したことで、専門医療に結びつけた。6名は、適切な治療を受けて再入所となった。

入所中の主な疾患は、尿路感染症、蜂窩織炎、誤嚥性肺炎、貧血、食欲不振、嘔吐などで、点滴治療を行った。平均年齢は85.7歳と超高齢化で、90歳以上は全体の36%を占める。より一層の健康管理が求められる。

2. 入所利用者の持参処方薬

定期的な血液検査やバイタルチェック。さらに、薬剤

師連携の下、減薬や必要な治療を行い、体調管理に努めている。

3. マニュアル作成

入所利用者に安心、安全な環境を提供するため、統一したケアの実施に向けた看護マニュアルの整備、業務マニュアルの作成を行った。また、可能な限りWEB講習を受け、質の向上に努めた。

今後の目標

感染予防と異常の早期発見に努め、安心して生活できる場所を提供する。利用者の尊厳を守り、その人らしく生活機能の維持・向上ができるように支援するための知識を深めながら、看護の質の向上を目指す。

リハビリテーション課

文責／金子正樹、平澤美枝子

スタッフ(2022.3現在)

理学療法士：常勤5名、非常勤3名

金子正樹(理学療法科主任)、
佐田龍吾(副主任)、依田香保、萩野匡史、
菊池嘉志、秋山大輔(非常勤)、
峰村浩司(非常勤)、鈴木宏美(非常勤)

作業療法士：常勤1名、非常勤1名

鈴木亜矢、新村和美(非常勤)

言語聴覚士：常勤3名

平澤美枝子(言語聴覚科係長)、
田代 舞(リーダー)、森本未来

助手：常勤1名、非常勤1名

千葉哲也、松尾佐津代(非常勤)

活動状況

2021年度に引き続き、科学的介護の推進、感染症対策、口腔ケア・栄養管理、虐待・事故防止等、利用者の重度

化や多様性へ対応するように努めた。また、更なるリハビリテーションを拡充するため作業療法士を採用した。

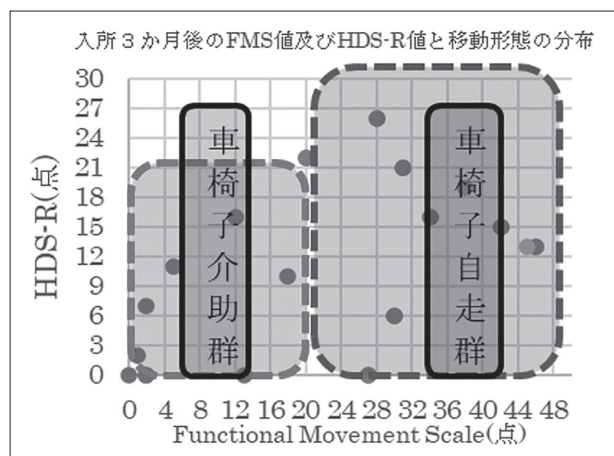
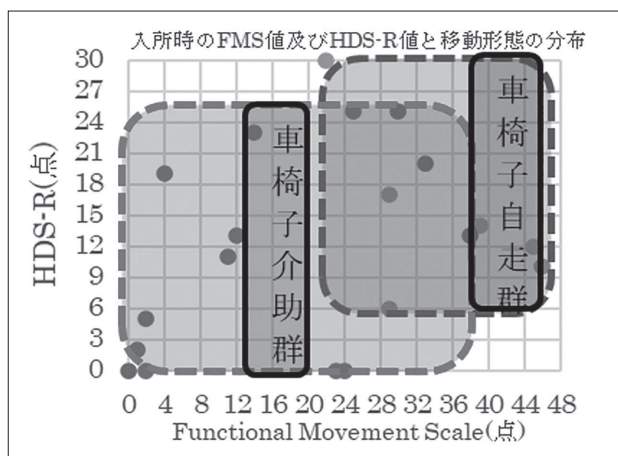
1. 機能的動作尺度(Functional Motor Scale:FMS値)計測による生活能力改善支援の実績

2021年度の新規入所利用者27名のうち、入所時と入所3ヶ月後にFMS値およびHDS-R値をとともに計測でき、移動形態が車椅子介助群と車椅子自走群であった15名に着目して報告する。

入所時の車椅子介助群の人数は11名、FMS値の平均点は17.5点、HDS-R値の平均点は11.5点であった。車椅子自走群の人数は4名、FMS値の平均点は31.5点、HDS-R値の平均点は15.8点であった。

入所3ヶ月後の車椅子介助群の人数は7名、FMS値の平均点は7.4点、HDS-R値の平均点は5.3点であった。車椅子自走群の人数は8名、FMS値の平均点は32.5点、HDS-R値の平均点は14.9点であった。

入所時の車椅子介助群11名のうち4名が、入所3か月後には車椅子自走群に移行できた。FMS値で考えると、



30点前後が車椅子自走レベルであったため、車椅子自走群に移行するには、起居臥床動作・座位保持・座位バランス・立ち上がり・立位保持・片脚立位保持・移乗動作・180度方向転換を修正自立～自立レベルに改善できることが必要かと思われた。HDS-R値で考えると、15点前後の点数を獲得できれば、車椅子管理能力が向上し、車椅子自走に移行しやすいと思われた。

2. 経鼻経管、胃瘻栄養から経口摂取移行の試み

2021年度経管栄養で入所した利用者は4名。3食経口摂取へ移行できたのは1名。2020年度同様、重症度は多様化の傾向がみられる。経管栄養実施者の経口摂取移行の可能性の見極め、多職種での取り組みを継続したい。

3. 歯科衛生士の介入について

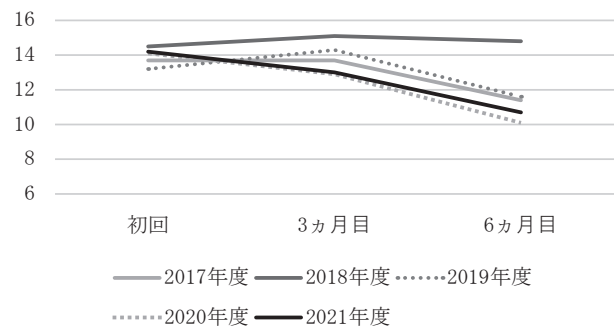
2020年度に引き続き、歯科衛生士より介護職員へ、入所利用者の口腔ケアについての指導を行った。利用者延べ31名に対し、入所担当介護職員18名(60%)が指導を受けた。これまで誤嚥性肺炎発症の軽減に寄与してきたが、新年度は、歯科衛生士の協力を得て、さらに口腔衛生の向上を図りたい。

4. 認知機能低下への対応

2017年度から2021年度の5年間に入所した利用者の入所時、3ヶ月後、6か月後の改訂長谷川式簡易知能スケール(以下HDS-R)平均値を比較した。2020年度の分析では、面会制限、活動自粛が3ヶ月後の平均値低下

に影響を及ぼすと考察。入所施設全体として、季節を感じる工夫やオンライン面会の体制を整えた。印象として利用者の活気向上は感じられているが、2021年度も昨年度と同程度の低下傾向(-1.2点)となり、入所利用による認知機能面への利点が十分には得られていないと考えられた。新年度は作業療法の視点や訓練提供方法を見直し、取り組む。

●入所利用者HDS-R値



今後の目標

コロナ禍により、面会制限等、外部との交流制限があったが、徐々に交流が開かれてきている。感染症予防に配慮しつつ、活動を再開したい。また、作業療法士も加わったので、入所・通所利用者のADL・IADL・QOL改善に向けた取り組みを前進させたい。

デイケアセンター

文責/黒川修一

スタッフ(2022.3現在)

理学療法士：常勤1名

黒川修一(センター長)

介護福祉士：常勤7名

前田美香、山口真弓、関口千恵美、

中山彩夏、前田匠太、池田 円、砂川洋介

介護職員：非常勤2名

古川 武、中村優衣

活動状況

1. 通所利用者数の月別変動

本年度の通所実利用者数は150名、通所延べ利用者数は9,944名、1日平均32.3名であった。延べ利用者数は昨年度の9,319名より増加した。今年度は8月からの緊急事態宣言や、まん延防止等重点措置等があったものの、利用者のコロナ慣れやワクチンの2回目の接種もあったことから、昨年度に比べて利用者数の減少は少なかった。今年度はLIFEへの情報提供と、口腔栄養

スクリーニング加算の算定を実施。通所中止利用者35名中、死亡により中止した10名を除く25名を中止理由別にみると、卒業が2名(8.0%)、サービス移行者10名(40.0%)で、昨年度の9名(24.3%)より増加し、利用継続不能となった通所利用者は13名(52.0%)で、昨年度の27名(73.0%)より減少した。

2. リハビリテーションからの活動報告

介護報酬改定により、昨年度から当施設で算定していたリハビリテーションマネジメント(以下リハマネ)加算(Ⅲ)は、リハマネ加算B(イ)に変更となったが、算定要件は、リハビリテーション会議(以下リハビリ会議)の定期開催など、前述のリハマネ(Ⅲ)とほぼ同様であった。さらに上位のリハマネ加算B(ロ)を目指すため、上記の算定要件に加えて、LIFEへのデータ提出ができる体制を整え、7月より算定を開始した。リハビリ会議の開催については、全国的に新型コロナウイルス新規感染者数が増加傾向時は、感染予防のためタブレットPCを用いてWEB開催としたが、ひと月に約40件の会議を実施することができた。

生活行為向上リハビリテーション実施加算を9月と10月に2ケース実施した。訪問を交えながらバスの乗降や自宅入浴練習を行った。上記以外でも必要性に応じて訪問指導を行い、サービス担当者会議にもできる限り参加した。本年度から佐倉市の地域ケア個別会議に参加しており、事業所外の活動も充実してきている。本年度より、作業療法士2名(常勤1名、非常勤1名)が加わり、さらに幅広いリハビリテーションの提供が可能となった。これを機に来年度からは認知症短期集中リハビリテーション加算の算定を予定しており、地域からの多様なニーズに対応できる体制を整えたい。

今後の目標

通所リハビリテーションの有用性を求めるため、LIFEへの情報提供を継続する。また、多職種とも連携し、適切なケアを提供する。

3 委員会活動

運営委員会

文責／香取文男

◎目的

施設全体の運営が円滑に行えるよう各課の代表により検討する。

◎メンバー(2022.3現在)

委員長：遠山正博(施設長)

事務長：香取文男

総務課：加藤昌宏、島 雅之

相談・連携課：石田康之

介護課：丸山 恵、関口翔平

看護課：清治恵子

リハビリテーション課：平澤美枝子

デイケアセンター：黒川修一

栄養課：細島ひさゑ

◎開催日

毎週火曜日、午後3時

◎活動状況

施設長を中心として各職種代表により構成。施設運営の根幹となる事項を検討し、業務成績の向上を図った。

◎今後の目標

継続し、成績向上を図る。

入退所検討会

文責／石田康之

◎目的

入退所決定の透明性、公平性を確保し、より適切な介護サービスの提供を行う。

◎メンバー(2022.3現在)

委員長：遠山正博(施設長)

事務長：香取文男

相談・連携課：石田康之、岡田大輔

介護課：関口翔平

看護課：清治恵子

リハビリテーション課：金子正樹、田代 舞

デイケアセンター：黒川修一

栄養課：細島ひさゑ

◎開催日

毎週火曜日、午後2時

◎活動状況

病院からの利用者は74人、居宅系からの利用者は35人であった。今年度も新型コロナウイルスが蔓延しており、昨年度と大きな変化はない。入所利用者については、在宅復帰を目標に、今後の方向性も合わせて早い段階で議論し、情報を共有した。

◎今後の目標

継続し、成績向上を図る。

虐待防止検討委員会

文責／長竹静子

◎目的

虐待を起こさないためのマニュアル、指針、研修の整備・拡充に努める。虐待発生時の具体的対応を検討する。

◎メンバー(2022.3現在)

委員長：長竹静子(看護課)

事務長：香取文男

相談・連携課：岡田大輔

介護課：丸山 恵、小野寺陽子、佐久間絢香

リハビリテーション課：金子正樹、森本未来

◎開催日

第3月曜日、午後4時

◎活動状況

2021年度介護保険改定に伴い、事故防止に関する委員会の設置が必須となり立ち上げた。既存のマニュアルを、関係法令に準拠したものに更新中。新入職員にはどのような行為が虐待にあたるのか、ベテラン職員には虐待防止に関する知識を習得できるような研修カリキュラムのあり方を検討した。

◎今後の目標

今後も虐待が起きない環境整備を整える。

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

事故防止検討委員会

文責／長竹静子

◎目的

施設内での事故を未然に防ぐ。発生時には適切かつ迅速に対応できるよう、マニュアル等を整備する。

◎メンバー(2022.3現在)

委員長：長竹静子(看護課)

事務長：香取文男

相談・連携課：岡田大輔

介護課：丸山 恵、小野寺陽子、佐久間絢香

リハビリテーション課：金子正樹、森本未来

◎開催日

第3月曜日、午後4時

◎活動状況

2021年度介護保険改定に伴い、事故防止に関する委員

会の設置が必須となり立ち上げた。既存のマニュアルを関係法令に準拠したものに更新中。これまで、ヒヤリハット報告については、個人の判断に委ねられていた。また、ヒヤリハットは起きてはならないものであるという誤った認識をしている職員がいる状況だった。本年度は、外部の動画研修も活用しながら意識改革を行い、昨年度に比べ非常に多くの報告が上がるようになった。週1回、内容・時間・場所等の相関性や、様々なケースについて考える機会を設けることができた。

◎今後の目標

職種関係なく職員が自発的に多様な意見を述べられる環境整備を推進する。

身体拘束検討委員会

文責／長竹静子

◎目的

利用者の生命および身体の保護のため、一時的な身体拘束と、最短期間で解除するための対応を検討する。

◎メンバー(2022.3現在)

委員長：長竹静子(看護課)

事務長：香取文男

相談・連携課：岡田大輔

介護課：丸山 恵、小野寺陽子、佐久間絢香

リハビリテーション課：金子正樹、森本未来

◎開催日

第3月曜日、午後4時

◎活動状況

今年度の拘束者は計4名(昨年度の継続者1名、鼻腔チューブ自己抜去1名、酸素マスク事故脱着1名、向精神薬投薬1名)であった。新型コロナウイルス感染症は終息せず、家族面会ができないストレスから、不穏や徘徊、自傷行為が認められた。いずれも2022年3月現在は解除されている。

◎今後の目標

今後は創意工夫をもって、身体拘束せず対応できるよう学ぶ。

感染対策委員会

文責／清治恵子

◎目的

感染症に関する研修の企画開催や関連マニュアル整備をすることで、職員の子防意識や知識・技術の向上、施設内感染を防止する。

◎メンバー(2022.3現在)

委員長：清治恵子(看護課)

事務長：香取文男

相談・連携課：石田康之

介護課：丸山 恵、木村由美子、堀江 泉、関口千恵美

看護課：宮内美子、長谷川順子

リハビリテーション課：平澤美枝子

◎開催日

第3火曜日、午後0時30分

◎活動状況

感染症発生時に必要な物品を迅速に持ち出せるよう、感染症対応バケツを用意した。また、カラーマットなど、今まで定期的には洗っていなかった備品を洗浄し、施設内の衛生環境を整えた。感染症対応に関する施設内研修として、関連法規に則り、専門家による解説動画視聴やガウンテクニック実習を実施した。新型コロナウイルス感染症発生時の対応マニュアルを更新し、変更点の周知に努めた。

◎今後の目標

感染症発生予防はもとより、万が一発生した際の対応についても適切に対応できるよう体制を整える。

褥瘡改善委員会

文責／宮内美子

◎目的

褥瘡予防、発生減少を目指す。

◎メンバー(2022.3現在)

委員長：宮内美子(看護課)

相談・連携課：岡田大輔

介護課：丸山 恵、中山陽介、児嶋禎一

看護課：米嶋いつ子

リハビリテーション課：田代 舞、萩野匡史

栄養課：細島ひさゑ

◎開催日

第1水曜日、午後1時30分

◎活動状況

利用者の褥瘡ケア計画書・自立支援計画書は3月に1回作成(入所日基準)。2021年の褥瘡発生は6名、うち持ち込み1名、再発1名であった。治癒に要した期間は平均2週間程、1名は他の疾患により退所。本年度は新型コロナウイルス感染対策のため、リモート研修に参加した。

◎今後の目標

各課連携し褥瘡発生予防と早期発見に努める。

排泄検討委員会

文責／保谷浩一

◎目的

排泄状況の改善を目指す。

◎メンバー(2022.3現在)

委員長：保谷浩一(介護課)

事務長：香取文男

介護課：丸山 恵、知念亮子

看護課：長竹静子

リハビリテーション課：金子正樹

◎開催日

第1火曜日、午後0時30分

◎活動状況

介護度の重度化が進むなか、排泄介助に際しては利用者・介助者の心身への負担軽減が求められる。衛生面・生活の質向上を目標に、リハビリテーション課と連携を取りながら、可能な利用者に対してはオムツからトイレ排泄への移行に取り組んだ。また、自立支援を図るため、新規でパンツ装着が可能なパッドを導入。便性状が緩く漏れの多い利用者に対しては、服薬調整等を行うことで漏れの改善につながった。

◎今後の目標

今後も各課と協力し、トイレ排泄移行に取り組む。

栄養委員会

文責／細島ひさゑ

◎目的

全ての利用者を対象とし、個々に見合う食事の提供と栄養管理の充実を目指す。

◎メンバー(2022.3現在)

委員長：細島ひさゑ(栄養課)

事務長：香取文男

相談・連携課：岡田大輔

介護課：丸山 恵、鈴木厚祐、前田美香、中山陽介

看護課：宮内美子

リハビリテーション課：平澤美枝子、金子正樹、

田代 舞

◎開催日

第1水曜日、午後0時30分

◎活動状況

健康管理の一環として、個々の利用者の栄養管理について対策を講じ、栄養状態の改善、疾病の予防、QOL向上に努めた。喫食率を上げる取組みとして、食具を見直し改めた。嚥下障害への対応をより密に行った。高齢者の食を豊かにする取組みは、好評を得た。食品衛生管理について話し合い、食中毒および感染性胃腸炎の予防に努めたところ、皆無であった。感染性患者発症時の食事提供手順について、迅速に対応できるように改めた。

◎今後の目標

喫食率の更なる向上と褥瘡予防に寄与する。

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

防災・BCP委員会

文責／香取文男

◎目的

災害時における防災対策や定期的な避難訓練の実施およびマニュアルの作成、見直しを行う。

また、必須となったBCP(事業継続計画)の整備に対応する。

◎メンバー(2022.3現在)

委員長：香取文男(事務長)

総務課：島 雅之

介護課：関口翔平、藤野優由貴、長山ゆめか

看護課：長谷川順子

リハビリテーション課：黒川修一

◎開催日

第2火曜日、午後0時30分

◎活動状況

防災訓練は、管轄消防署と相談し、最少人数に限定して口頭説明で実施した。日々の活動は、トラッキング発火予防、機器の点検などに限定した。また、新型コロナウイルス感染症発生時における業務継続計画(サービス類型：入所系、同通所系)、自然災害発生時における業務継続計画を作成中。

◎今後の目標

長期間、防災訓練を実施できていないため、感染症対策を講じた上で実施したい。

職場精神衛生管理委員会

文責／平澤美枝子

◎目的

就業意欲が向上する職場環境を創出する。

◎メンバー(2022.3現在)

委員長：平澤美枝子(リハビリテーション課)

事務長：香取文男

相談・連携課：石田康之

介護課：丸山 恵、鈴木厚祐、泉澤亜由美

看護課：小川ひろ子

リハビリテーション課：佐田龍吾

◎開催日

第4水曜日、午後0時30分

◎活動状況

施設内研修は感染対策をしながら、動画(確認テスト

付き)を中心に実施した。職員の定着を図るため新入職者面談(3・6・12ヵ月目)を実施し、問題点があれば各課長と連携した。3年ごとに行っている職員満足度調査は、ストレスチェック結果を活用した。なお、新型コロナウイルス感染症流行により業務量が増加したため、今年度は実施せず、2022年春の実施に向け準備を行っている。2022年度医学フォーラムでは、当委員会の約5年間の活動報告を行った。施設設備における不具合についても適宜検討し、対応につなげた。

◎今後の目標

施設における必要な研修は増加しており、時間を確保する必要がある。感染症流行や制度などの環境変化に合わせて研修を充実させ、職員の技術、意欲向上を図りたい。

プラン・データ委員会

文責／島 雅之

◎目的

2021年度介護報酬改定において新設されたLIFEに対応し、フィードバックの有効活用、在宅復帰率に寄与するため、介護支援専門委員会を改組。各種計画書の作成、同意および署名の取得状況を管理する。

◎メンバー(2022.3現在)

委員長：島 雅之(総務課)

事務長：香取文男

相談・連携課：石田康之

介護課：丸山 恵、関口翔平、藤江 誠

看護課：梶内清治、宮内美子

リハビリテーション課：金子正樹、平澤美枝子、
佐田龍吾

デイケアセンター：黒川修一

◎開催日

第4火曜日、午後0時30分

◎活動状況

科学的介護推進に関する評価(施設・通所・居住)、自立支援促進に関する評価、口腔機能向上サービスに関する計画書、排せつの状態スクリーニング・支援計画書、褥瘡対策に関するスクリーニング・ケア計画書、リハビリテーション実施計画書の提出に関する検討と関連する加算の算定を開始した。また、これまで計画書ごとに署名を求めていたが、一枚の同意書式を作成したことで、一連の作業の簡素化を図った。

◎今後の目標

LIFEへのデータ提出に係る事務作業を効率化する。

4 活動報告

1. 不穏症状と面会の関係

新型コロナウイルス感染症が蔓延しており、入所期間中一度も面会していない利用者もいる。そうした利用者の中には、不穏や徘徊、自傷行為等が認められる者もあり、対策としてWeb面会を開始した。しかし、家族が通信端末やアプリケーション等の扱いが不得手であるなど、諸々の問題から、想定より浸透していないものの、徐々に件数は増加してきている。

今後は不穏症状と面会実施の関連性を検討していきたい。

2. 施設内研修

老健職員として全般的な技術向上を目指し、施設内研修内容の改善を図った。新型コロナウイルス感染症の終息は未だ見えず、引き続き動画研修の取り入れや確認テストを行うなど、充実を図った。動画研修の内容は、職場精神衛生管理委員会にて、可能な限り、幅広く見識を得られるよう選定した。

3. 高齢者に適するおやつを提供

米屋株式会社研究開発副統括兼事業開発室長 白鳥正俊氏と共同で開発した「高齢者に適する水羊羹」を、昨年度に引き続き提供し好評を得た。中秋の名月に因み9月22日に、66人の入所利用者(経管栄養対象者を除く)に提供。お月見に因んだ音楽やポスター、ススキ、団子などを飾り秋の夜を演出した。また、容器に「米屋」とわかるシールを貼付することで、老舗ブランドであることを強調すると喜ばれた。水羊羹の提供に対し、アンケートを実施。「また食べたいか」という設問に対し、「食べたい」が62人(94.0%)、「食べたくない」が3人(4.5%)。「返答無し」が1名(1.5%)。今後も利用者のより一層豊かな食を目指し、この取り組みを継続したい。関係者準備検討会は計6回開催。

4. 社会貢献活動

介護予防のための地域ケア個別会議

活動部署：デイケアセンター

開催日：2021.5.26

場所：佐倉市地域包括支援センター

介護予防のための地域ケア個別会議

活動部署：デイケアセンター

開催日：2021.6.23、10.20、11.17

場所：ミレニアムセンター佐倉

介護予防のための地域ケア個別会議

活動部署：デイケアセンター

開催日：2021.7.28

場所：中央公民館

地域ケア圏域推進会議

活動部署：デイケアセンター

開催日：2021.8.25

場所：オンライン開催

介護予防のための地域ケア個別会議

活動部署：デイケアセンター

開催日：2021.9.22

場所：オンライン開催

地域ケア圏域推進会議「オンライン意見交換会」

活動部署：デイケアセンター

開催日：2021.9.28

場所：オンライン開催

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

5

関連施設

厚生園ケアマネジメントセンター

文責／高橋隆彦

スタッフ(2022.3現在)

主任介護支援専門員：常勤1名
高橋隆彦(管理者)

介護支援専門員：常勤2名
内藤順江、成毛育子

活動状況

2021年度の目標は「佐倉厚生園病院の理念に基づき、安心できる在宅生活を支援する」としていた。

1. ケアマネジメントの質の向上については内部・外部の研修に参加し、スキルアップを図った。また法令遵守を意識し、毎週の定例会や随時事例検討等を行った。
2. 感染症対策を講じた上、佐倉市内の地域包括支援センターとの研修会等に参加し、連携の強化を図るとともに、情報交換を行った。また社会資源等の情報を整理し、有効活用した。退院・退所後の在宅生活がスムーズに行えるよう相談員等との連携を図り、利用者が安心して在宅に復帰できるよう基盤作りに努めた。
3. 新設の施設見学や勉強会に参加することで情報収集するとともに、各事業者と密に連携を取ることで、より良い関係作りに努めた。
4. 職員間でコミュニケーションを密にし、情報の共有化を図った。
5. 事業所間の連携を強化し、グループの活性化を図った。
6. 特定事業所加算を算定し地域貢献に努めるとともに、収益の改善を図った。
7. 学会・研修会への参加

- ・全スタッフ：白翠園・風の村ケアプランセンター「合同事例検討会」2022.2.14
佐倉市高齢者福祉課「介護予防のための地域ケア会議(自立支援型)研修」2022.3.14
佐倉厚生園病院訪問リハビリ「勉強会、情報交換会」2022.3.22
- ・高橋隆彦：佐倉・南部地域包括支援センター「介護予防の為に地域ケア個別会議について」(佐倉)2021.5.12
佐倉地域包括支援センター「生活困窮者の支援」2021.7.14
佐倉地域包括支援センター「介護予防のための地域個別ケア会議」2021.7.28

佐倉市南部地域包括支援センター「事例検討会」2021.10.19

佐倉・南部地域医療・介護連携の会「ACP人生会議について」2021.12.3

さくらケアマネ協議会「医療・介護の連携～行政・薬局・病院の取り組み」2021.12.15
佐倉・南部地域医療・介護連携の会「現場の実際を知る」2022.2.18

- ・内藤順江：佐倉地域包括支援センター「座談会・ケアマネサロン」2021.4.15
佐倉地域包括支援センター「8050問題の事例検討」2021.9.16
佐倉地域包括支援センター「ケアマネサロン・認知症関係」2022.3.9
- ・成毛育子：佐倉地域包括支援センター「生活支援サービス・ご近所の支えあいサービスについて」2021.6.16
佐倉地域包括支援センター「高齢者虐待の支援について」2021.11.18
千葉県介護支援専門員協議会「2020年度主任介護支援専門員研修」2021.12.7、12.8、12.22、12.23、2022.1.20、1.26、2.9、2.20、2.25

今後の目標

佐倉厚生園病院の理念に基づき、安心できる在宅生活を支援する。

1. ケアマネジメントの質の向上
 - ① 外部研修会等に積極的に参加し、知識・技術を磨く。
 - ② 法令を遵守し、法改正に柔軟に対応できるように努める。
 - ③ 職員間の活発な意見交換を行い、より良いケアマネジメントに繋げる。
2. 地域包括ケアシステムへの参加
 - ① 各事業所と情報交換し、事業所間の繋がりを作り、深める。
 - ② 地域包括支援センター・医療連携室との交流・情報交換等を強化する。
 - ③ 行政や民生委員との連携を強化する。
 - ④ 中重度の要介護者や認知症高齢者への対応の更なる強化を図る。
 - ⑤ 各事業者と密に連携を取ることで、収益の改善を図る。